

『移り行く季節によせて』 寸評

- ・ たしかにうつりゆく季節がみえるテクスチャが展開されている
- ・ 自由闊達なピアノ書法
- ・ 音域をいかしたヴァイオリンののびやかさ
- ・ ややあわただしい雰囲気季節のかわるさまをおぼえる
- ・ m.15-16 のかるやかな終止が印象にのこる

完成度をさらに上げるために

- ・ 全体的にピアノ左手の16分音符（スラーがついていないもの）は八分音符にスタッカートを振ったほうがテクスチャがみえてくる
- ・ m.12 b.4 ピアノ左手のD[#]はさすがに外れてきこえる
D[#]で和音にアクセントを振る等にしておきたい
- ・ m.11 b.3 ピアノ左手のミ（＝導音）が多すぎるので第5音ソにしておこう
- ・ m.10 b.5 ピアノ右手ファがVn.のミとぶつかるのでミにしておきたい
- ・ m.5 b.5-6 ピアノのクレッシェンドはb.4 からにしたほうが現実的
- ・ m.4 ピアノ右手のスラーは3拍ずつにしたほうが現実的
- ・ m.12, 14 b.1-3 ピアノ右手の休符の順は八分音符単位でまとまるように
- ・ Vn.とピアノの五線のあいだをすこし離すとさらにみやすくなる

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

たいへん洗練された作品です。

持麿 勉